

# 「腰の負担」を緩和 業務効率の低下に歯止め

賀谷セロファン株式会社は、食品パッケージを中心としたプラスチックフィルムの製版、印刷、加工の工程を一貫して手掛け、付加価値の高い製品とサービスを提供している。企業理念の中で「個人の豊かさ」の実現を目指す同社は、腰に負担のかかる原材料の荷受や出荷の作業を改善するために、ユーピーアールのサポートジャケットを採用した。

## 課題

腰の負担に悩まされる社員が増え、業務に負のスパイラルが起きる

## 成果

サポートジャケットの採用で  
定年後に再雇用された人材も活用

## 導入製品

**SUPPORT JACKET**  
**Bb PRO**  
 Produced by KANSAI YAMAMOTO

## 課題

### 腰の負担に悩まされる社員が増え、業務に負のスパイラルが起きる

同社の製造部業務課長の絹谷義憲氏は、食品パッケージの「顔」であるプラスチックフィルムの生産工程や出荷などの物流、さらには



賀谷セロファン株式会社 製造部 業務課長の  
絹谷 義憲氏

購買を担当している。現在の部署に配属される以前は、生産の現場で材料の荷受や製品の出荷を担当していた。その経験から、製造現場における課題を絹谷氏は次のように語る。

「もともと、荷受や出荷を担当していました。その部署から現在の立場に代わってみると、自分よりも年が上の方が、荷受や出荷の仕事をすることになっていました。自分の経験から、重い材料の開梱などは大変だと感じていたの、年配者があれだけ重い材料を運べるのだろうか、という不安がありました。また、機械化が難しいために人の力に対応するしかないとは思っていましたが、それにも限界があると予測していました」

現場の作業について、業務課工務係の中塚氏は「私の仕事は、納品された原材料の梱包をほどいて、その中身を現場に納入する作業です。この作業は、20kgの原材料を中腰の状態を持ち上げるので、とても腰に負担がかかります。

そのため、これまで腰への負担から数日間自宅療養する作業員もいました」と苦勞を語る。

作業現場で発生している腰への負担は、個人の問題ではなく、会社全体としての業務課題となっていた。その理由について絹谷氏は「従業員の腰の負担によって、欠員が出てしまうことがありました。そうすると、日ごろはデスクワークをしている事務方が、現場の応援に行くことになります。その結果、事務処理が滞ってしまい、仕事が止まってしまうのです。最終的には、仕事がオーバーフローして残業になり、その方は次の日も疲れを残したまま業務を行わなければなりません。

こうして負のスパイラルに陥ってしまうのです」と説明する。この課題を解決するために、業務課では腰への負担を軽減する対策の検討をスタートさせた。

## 検討

### 展示会でサポートジャケットの存在を知り検討を開始

絹谷氏がサポートジャケットの存在を知ったのは展示会での展示だったという。「物流展に行き、このようなスーツがあると聞いて、見てみましたが、正直、最初の頃は、こんなものでほんとに効果があるの、という疑問を持ちまし

た。それでもまずは使ってみないとわからない、自分の現場で使ってみよう、何か解決のヒントを得られるかもしれないというのが最初の印象でした」と当時の様子を振り返る。

「とにかく一回使ってみて、僕らで評価をし

て、その結果を元に、現場の声を浸透させていけたら、と考えたのです。」

と絹谷氏は検討した経緯についても触れる。

**成果** サポートジャケットの採用で定年後に再雇用された人材も活用

サポートジャケットの導入にあたっては、半年ほどの検討期間を経て、効果の判断をするために1～2ヶ月のテスト導入を行った。そのときに「一度定年で退職されて、再雇用の形で現場に戻ってこられた方に、サポートジャケットを使ってもらうことにしました。利用においては、私から説明はしませんでした。説明をいっぱい重ねてしまうと、現場の方は面倒に感じますし、使い方を強要してしまうと、正確な効果が得られないと考えたのです。結果、どういう機能があるかも詳しく言わずに『使ってみてください』といってテストを開始しました。すると、反応を覚えてもらった際にいきなり『いいね』という声をもらいました。そこで、どうよかったですか、と質問すると『楽です』とか『腰の負担もものすごく楽です』という、僕らが思っていた答えが、そのまま聞けたのです。

さらに『会社で買ってくれるの?』という言葉まで出てきました」と絹谷氏は導入の印象を振り返る。

実際に装着して作業している中塚氏も「これをつけてからは、同じ作業でも腰の負担の感じ方が全然違います。いつも8時間、この作業をしているので、以前に比べれば、大分楽に作業できるようになりました。また量的にも時間的にも作業が早くなったと思います」と評価する。

さらに絹谷氏は「今回の導入に関しては、ユーピーアールの担当の方もとても一所懸命でした。私たちと思いが一緒だったのだと思います。実際の現場で発生している様々な悩みなども聞いていただいて、現場も見てもらい、こういうことで使っている、というユースケースも確認してもらいました。一緒になって実際の

空気を感じ取ってもらえたことで、互いに共感できました。その部分も導入のスピードアップにもなったと思います」と話す。

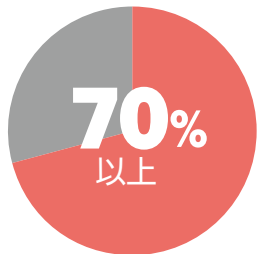


業務課工務係 中塚 聡氏。入荷する原料の検品・移動・格納、原料の投入準備、出荷を担当する

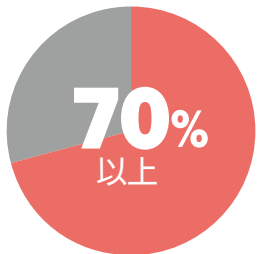
**展望** ユーピーアールの真摯な対応も評価し、今後は工場全体へ拡げていく

■ サポートジャケット装着についての調査結果

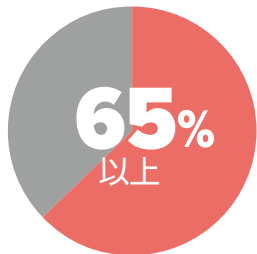
装着時に腰への負担軽減を実感した方



導入後の顧客満足度<sup>※1</sup>



導入テスト実施時の支持率<sup>※2</sup>



※1 ユーピーアール株式会社調べ(導入企業様へのアンケート結果)  
 ※2 ユーピーアール株式会社調べ(金沢大学様にて実施した販売前テストでの支持率)

「現在は3名がサポートジャケットを使用しています。作業現場では、どうしても腰に負担がかかりますので、若い子にもつけてもらって、社内でも広めていけたらいいですね」と中塚氏は希望を述べる。

「もっともっと、私たち以外の企業の方にも、サポートジャケットを知ってもらいたいです。また、実際に利用するのは、生産現場の方だけではなくてもいいのではないかと思います。立ち仕事や事務部門でも、疲労を軽減する目的であれば、サポートジャケットが効果的ではないかと考えています。」と絹谷氏は話し「今後のサポートジャケットは、若い方からお年の方まで、それぞれの業務形態や体に合った形で、選べるような進化を遂げてほしいです」と抱負を語った。

USER PROFILE

賀谷セロファン株式会社



Kaya cellophane.co

創 業 : 昭和 24 年 5 月 (設立 昭和 29 年 5 月)  
 本 社 : 〒 924-0011 石川県白山市横江町1214-4  
 代 表 者 : 代表取締役社長 賀谷真尚

資 本 金 : 30,000,000 円  
 主 な 事 業 内 容 : 軟包装資材の製造 (印刷・加工)・企画・販売  
 従 業 員 : 65 名

本製品に関するお問い合わせ

☎ 03-6852-8932 利用時間 9:15～17:30 (土・日・祝日および年末年始を除く)

✉ <https://www.upr-net.co.jp/suit/contact.html> (メールフォーム)

☎ 03-3593-3020

upr ユーピーアール株式会社  
<http://www.upr-net.co.jp>

〒 100-0011 東京都千代田区内幸町 1-3-2 内幸町東急ビル 12F  
 TEL.03-3593-1730 FAX.03-3593-3020